



## 特集 死を学ぶ ～人はなぜ死ぬのか～

誰にでも必ず訪れる死…私たちが死を意識するのは、自分の老いを感じたときでしょうか?老いた父母が倒れたときでしょうか?自分や家族や友人が治癒の見込みのない病気になったときでしょうか?または思いがけない災害や事故にあったときでしょうか?

### ◆生きることと死

昨今、核家族化と現代社会の風潮により、実際に看取りができる体験や看取りを通して命の尊厳を感じたり、健康の大切さを考えることのできる機会は本当に少なくなっています。ともすれば命でさえゲームなどのバーチャルな世界のことのよう錯覚し、その価値が希薄となり、肉体が減ると、すべてが終わってしまう



《人類の神殿「ソシアへの扉」金属の部屋》

うかのように捉えがちになっています。そのため、苦しみから逃れようと死を選ぶ人があとを絶ちません。死についての明確な教育もなく、私たちは死についてあまりにも無知なままに生きているのです。

死はすべての終わりではないのです。死によって終わるのは肉体の機能だけで、魂の旅は永遠に続いていきます。魂の進化にはカルマの法則がかかっているため、自分が考えたことや行動の結果によって、プラスであれマイナスであれカルマを生み出します。その結果は次の生まれ変わりに深くかかわってきます。死を敗北のように感じたり、忌み嫌う人もいますが、本来、人生の困難や絶望から逃げるために、生きることを放棄することこそが敗北であり、理想や愛する人たちのために、最後まで全力で生きることに立ち向かった果てに迎える死は、人生の集大成であり偉業ともいえる体験ではないでしょうか。

死とはどういうものなのか、死の瞬間に何が起り、死後の自分の存在にどのようなことが起こるのか、それは何のためなのか、それらを明確な知識として知ることができたら、私たちの死に対する考え方も、そして生き方も変わってくるのではないのでしょうか。

### ◆生まれ変わりのシステム

ダマヌールは私たちが精神的な進化をするために、創立当初から人間の生と死について研究と検証を重ねてきました。人間とは、永遠の存在である魂が、物質である肉体に乗り込んで様々な体験を重ねている存在なのです。そして一度の人生では限られた体験しか得られないために、全く違った環境や考え方の体験をするために、生まれ変わりを繰り返していることを明らかにしています。それぞれの人生で死を迎えるたびに得た結果や、物事に対する異なる捉え方の蓄積と統合こそが、精神的な進化につながっていくのです。古代エジプトのミイラやカノプス壺が残存していることや、現在のチベットにおけるダライラマの継承などからも分るように、高度の知識を持つ文明においては、計画的な生まれ変わりの技術が用いられていました。確固とした精神科学的知識と技術が駆使されていたのです。

### ◆魂に蓄積されるもの

魂の進化には、様々な感情を伴った体験の蓄積が必須です。楽しいこと、嫌なこと、達成感、至福感、そして悲痛な出来事の中にも、そこからしか得られない貴重な体

験があります。魂にとっては一瞬一瞬の出会いや体験にワクワクしながら生きることが大切です。魂には物質的なお金や名誉は無関係です。それらにどんなに執着していても、死後の世界へと持っていくことはできません。人間の核の部分である魂が財産として持っていけるのは、蓄積した体験とそれに伴う感情や思いだけなのです。

#### ◆人生を越えて

魂の旅は人生を越えて続きます。その観点からいうと死は一つの通過点です。様々な死に方も、魂にとっては体験の一つです。そして他の体験と同様、死という体験も真正面から受けとめ、そこから学びを得ることが必要です。もし死を恐れ、物質への執着から死を拒絶するならば、それは魂の進化の旅の障害になるかもしれません。死は怖いものでも苦しいものでもなく、大切な体験の一つなのです。またこの死のプロセスは宗教によって異なることはありません。それと同様に、死後の魂のサポートに関しても宗教を越えた普遍性があります。それらを知って実践することは、死に逝く人のみならず、そばで見守る人にとっても役に立つことです。その知識は、見送る側が悲しみや寂しさから

立ち直るための助けにもなるでしょう。

死とは何か?死後どこに行くのか?なぜ死ぬのか?それらの答えからは、生きるとは何か、ということが自ずと浮かび上がってくるでしょう。そして魂が永遠であることを知れば、自分さえ良ければ何をしても良いという個人主義的な考え方や、死ねば全てが終わるという考え方は、改めなければなりません。私たちがより自分らしく生きるために、物質偏重の時代だからこそ、死についての正しい知識を得て、自分の生を見つめ直す機会とし、今の人生に光り輝くスポットライトを当ててみませんか。

「死を習う」(仮称)セミナー開催のお知らせ  
2014年11月23日(日)～24日(月休)10時～18時  
ウインクあいち (名古屋駅から徒歩5分)

お問い合わせ窓口

○ダマヌール日本神戸センター

Tel/Fax(0798)23-9161 e-mail:damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp

○ダマヌール日本支援ネットワーク イビアル

Tel/Fax(052)683-8233 e-mail:jpjal@crux.ocn.ne.jp

## ニューライフ・プログラム 朋子さんの市民生活体験

現地ダマヌールには市民生活の体験ができるプログラムが用意されています。コミュニティーの中で目的の一つにする家族(ヌークレオ)に所属し、働くこと、学ぶことを通してダマヌールの基本的な精神性を体験することができます。参加者の山崎朋子さんに体験を寄せていただきました。



私がNew life programに参加したのは、ハワイでB&Bを運営しながらエコビレッジを立ち上げようとしている女性から北イタリアに素晴らしいスピリチュアルエコビレッジがあるよ!と聞いて、直感的に行ってみたく感じたからでした。ダマヌールのダミールに足を踏み入れて感じたのは、とても繊細な優しいエネルギーでした。美しい緑豊かな木々の合間からこもれる光、光を浴びて輝く色とりどりのバラやあじさい。エジプトの神様の銅像や手作りの小さな小人たち。森の精霊と人々が創り上げた神殿が独特な雰囲気醸し出し、ダマヌールがそこに在りました。

New Lifeのメンバーは、半市民のような感覚で、3ヶ月間ダマヌール市民と生活を共にし、コミュニティーの中で働き、色々なプログラムに参加でき、ダマヌールの精神と生活観を体験することができます。私は、2ヶ月間滞在しました。多くの貴重な楽しい体験に恵まれ、その中でも一番印象に残っているのは、ピアッジョという旅(ゲーム)です。その旅で学んだのは、個人という意識を超えて、全体意識で目的に向かって一丸となる体験でした。色々な文化、国籍の人々が集まり、朝から晩まで生活を共

にし、最初はバラバラだった個人が、お互いを思いやり、一人ひとりの意見に耳を傾け、真剣にゲームに取り組み、楽しみ、お互いを信頼し、ひとつになる。これは、人生と同じだと感じ、真剣にここに取り組みようと決めて、過ごしました。そこで、改めて分かったのは、全体意識で生きることの大切さ、楽しさ、偉大さでした。責任を持って行動していく、全体のことを考えて、意見を発する。常に、私たち人類、宇宙は栄えて、発展しています。目には見えない内なる宇宙としっかり繋がることで、目に見える現実世界は、どんどん愛と至福で栄えていきます。自分の内側で起きることは世界に繋がっています。このことを、身をもって体感したので、これから先も、今、ココ(愛)に生きて、全体に貢献していくことを誓いました。

ダマヌールでは、多くの人々が集まって、グループで働いたり、話し合ったりすることが多々あります。一人の力では何もできなくても、みんなの意識と力が集まると、偉大なパワーを発揮します。私たちひとりひとりが本来の神意識にしっかりと繋がることで、その人の持つ本来の才能も開花し、愛と至福の元に自然な流れに沿って、大いなる夢を現実化していけます。こんなに楽しい時代を創造していけることに感謝しています。ありがとうございました。

# 人類と地球の未来のためのプロジェクト 樹の活性化

ダマヌール日本では、2011年からダマヌールが推進しているプロジェクトの一つ、樹の活性化を積極的に行っています。1980年代、ダマヌールで自然の精霊たちと初の共同関係の調印をかわしたときに、植物の世界は、人間が自然への尊厳も配慮もないやり方で森林を破壊してきたために、人間との共同関係の調印には消極的という意思表示をしました。

樹々は、人間にはない特性と高い精神性や知識や感情を兼ね備える存在です。かつて人間が高い精神性を持っていた時代には、樹々を兄弟のように尊重して調和関係を築き、進化にむけて共同していました。そして、現在この関係を取り戻すことが、人類の未来に大きな可能性をもたらすと考えています。

そのために、30年前からダマヌールのテリトリー内では、何万本もの樹の活性化を行い、進化に向けた共同関係を受け入れる樹々を1本1本増やしていききました。人類の神殿のちょうど真上の屋外部分にあたる“聖なる森”は、荒れ果てた森でしたが、長年の手入れにより様々な命の存在が宿る森として、活力を取り戻しました。さらに、人間との共同を受け入れる樹々の集合意識の中心としての機能が活性化されていったのです。

そしてダマヌールのセルフという、時間や距離を超えエネルギーを集めて方向づけるテクノロジーによって、世界中の樹々の意識をより大きな集合意識である聖なる森へとつなげることができるようになりました。



樹の活性化とは、進化にむけて人間と共同することを受け入れた樹々の集合意識につながるネットワークを世界中に広げる取り組みです。これは、樹々の持つ賢さについての認識

を失った人間が、樹を単なる資源と見なした破壊行為により、人間と植物との共存や絆が長い間失われたままになっていた状態に終止符を打ち、本来の絆の復活へと貢献するオペレーションです。

私たちはセルフを持って雑木林、山林、公園や神社寺院に出向き、樹々と人間との信頼関係を回復させたいと願い、自然や樹々への敬意と尊厳をもって活性化を行ないます。活性化時における樹々との交流では、樹からメッセージを受けたり励まされたり、樹自身が活性化されるのを待っていてくれたりと、楽しい出来事が多く、私たちは活性化が大好きです。



聖なる森の樹々は宇宙と交信するためのアンテナの役割を担っており、世界中で活性化された樹々の意識も、この聖なる森の意識とつながってアンテナとなり、ダマヌールで同時に行っている、他の宇宙的项目に役立てられています。

2014年からは特に樹齢300年以上の巨木の活性化にも力を入れています。そして巨木に会いに行けば行くほど、それらの持つ穏やかな感情や調和的な意識に触れ、そのたびに感動し魅せられています。

## 縄文杉の活性化

この7月には縄文杉で有名な屋久島にも行きました。早朝に出発して、登山道に沿って樹々を活性化しながら縄文杉を目指しました。標高が高くなると樹々も太くなり、さらに世界遺産の地域に入ると全く別の空間に足を踏み入れたように感じました。そこには樹齢2000年～3000年の杉が点在し、森の神秘性と繊細さが増して、映画「アバター」の森そのものでした。山頂に着き縄文杉を見た瞬間、感謝で胸がいっぱいになり涙があふれました。凜とした姿は神々しく、雄大で寛大で神聖な命の存在そのものでした。

疲労困憊しながら、互いに励ましあって最後まで諦めずに登れて良かった！…喜びと感謝に浸りつつも、登山口から最終バスに乗るための時間制限があり、縄文杉とゆっくり対話する間もなく、来た道を引き返しました。往復12時間かけての活性化の旅を終えた時、肉体はクタクタでしたが、達成感と至福の喜びで満たされていました。



# ダマヌールのコミック 「時へのチェックメイト」より (12)

ファルコは兵士たちを神殿に入れます…



次号、新しい可能性が開きます…